

平成26年11月28日 (木)

1. ごあいさつ 総務幹事 北條洋 (福島県立医科大学会津医療センター)

第34回日本小児病理研究会学術集会は9月6日(土)、岡山大学病院 病理診断科 柳井広之先生のお世話で岡山大学鹿田キャンパスJunko Fukutake Hallで開催されました。柳井先生ならびに病理診断科のスタッフの皆様のご協力により無事終了できましたことに深く感謝申し上げます。



コンサート小ホールのような多目的会場で、発表投影スライドも大きく見やすく、空間の広がりは快適で、主題7題、一般演題6題では活発な討論がなされました。



池田善彦先生

また、主題の「小児の循環器病理」の教育講演は「病因別にみた小児心疾患の病理」(国立循環器病研究センター 池田善彦先生)、特別講演は「心臓幹細胞を用いた小児心疾患の解明と再生医療」(岡山大学病院新医療研究開発

センター 王英正先生)で、池田先生には多彩な心



王英正先生

疾患を病因別に整理し、診断価値の高い特徴的な病理所見を初学者にもわかりやすく、とてもきれいな光顕、免疫組織化学、電顕、遺伝子解析を提示し解説していただきました。

王英正先生にはiPS細胞技術、網羅的遺伝子解析を駆使

したhypoplastic left heart syndromeの病態、自ら発見、開発された心臓幹細胞の基礎と幹細胞移植による機能的単心房の心機能機能の改善と維持を目的とする第1-3相試験への応用についてわくわくする内容でお話いただきました。心臓幹細胞の移植という新たな小児心疾患の安全な治療法が開発される日は遠くありません。

幹事会、総会では、各報告事項が行われ、平成25年度決算、平成26年度予算が承認されました。協議事項の第104回日本病理学会総会の日本小児病理研究会・日本病理学会小児腫瘍分類委員会のコンパニオンミーティングは「小児リンパ腫の病理と臨床」の内容で、鶴澤正仁先生(あま市民病院)と藤本純一郎先生(成育医療研究センター研究所)にお話ししていただく予定です。また、第36回日本小児病理研究会学術集会は小田義直先生(九州大学大学院医学研究院形態機能病理学)のお世話で、2016年9月、福岡で開催されることになりました。

今後のコンパニオンミーティングは腫瘍性疾患、非腫瘍性疾患を隔年毎に、腫瘍性疾患については日本小児病理研究会・日本病理学会小児腫瘍分類委員会の共催でJCCGの各臨床研究や観察研究における中央病理診断の成果と問題点をとり上げ、中央病理診断にご理解・協力いただいている病理学会会員の皆様に還元し、共通の認識を得られるよう努めたいと思います。

(2ページに続く)

第35回日本小児病理研究会学術集会は松岡健太郎先生（成育医療研究センター病理診断科）のお世話で2015年8月29日

（土）、成育医療研究センターを会場に開催されます。多数の会員の皆様のお出席をお願いします。



トークンスティック

会報につきましては内容の充実に努めていきたいと思っております。国際交流、国際学会情報（IPPA, SIOP, SPPなど）の紹介のため学会出席者に情報提供をお願いすることとしました。また、幹事の皆様のコラムを掲載いたします。昨年の研究会で出された研究会の名称変更、特に学会への変更については相応の規約、各種委員会、会誌発行などの充実が求められますので、若い先生によるあり方委員会を設け意見の集約が必要と考えています。

今回の会場は民間（福武教育文化振興財団副理事長 福武純子氏）の寄附によるJunko Fukutake Hallでしたが、福武書店（現ベネッセホールディングス）が収集した絵画等の「福武コレクション」も有名です。とりわけ17歳で移民として単身米国に渡り、米国を代表する画家として評価され成功したが、自己

のidentityと葛藤し、不幸にも病のため生前に米国市民権を得ることが出来なかった岡山県出身の画家、国吉康雄のコレクションは国際的に知られています。次回（第56回日本小児血液・がん学会学術集会など）岡山に来られたときには、一括寄託された国吉作品を岡山県立美術館に訪ねてみては如何でしょうか。



小児腫瘍組織分類委員会との合同懇親会

2. 第104回日本病理学会学術集会コンパニオンミーティングのお知らせ

日本小児病理研究会では第104回日本病理学会総会（平成27年4月30日－5月2日、名古屋国際会議場）にてコンパニオンミーティングを開催します。小児病理に興味のある病理の先生方をお誘いの上、ふるってご参加下さい。

日時：未定

オーガナイザー；岸本宏志先生（埼玉県立小児医療センター病理診断科）

座長：中澤温子先生（国立成育医療研究センター病理診断部）

テーマ 小児リンパ腫の新しい分類と治療戦略
演者ならびに演題

鶴澤正仁先生（あま市民病院 病院管理監・愛知医科大学先端医学研究センター）

藤本純一郎先生（国立成育医療研究センター）

〈オーガナイザーのことば〉

白血病やリンパ腫等血液腫瘍の病理分類はWHO分類2001、WHO分類2008が病理所見に細胞マーカー、染色体及び遺伝子情報を加味した近代的な分類として広く受け入れられています。科学の急速な進展と同時進行する形で、わが国の小児血液腫瘍に関する臨床研究の枠組みも発展しました。すなわち、地区ごとに活動していた研究グループが日本小児白血病リンパ腫研究グループ（JPLSG）として全国統一し統一プロトコール試験の実施が可能となりました。当初から病理医が参加し病理中央診断委員会を組織してリンパ腫の病理中央診断を導入し、診断の均一性、正確性を担保しました。この中で、成熟B細胞由来腫瘍に対するB-NHL03、リンパ芽球型リンパ腫に対するALB-NHL03/LLB-NHL03研究、未分化大細胞型リンパ腫に対するALCL99国際研究が実施され、最近、研究結果が続々と発表されています。今回は、上記の病理中央診断体制とそれに基づく臨床試験の成績について病理の立場、臨床の立場から報告していただきます。

3. 幹事日より（1）長野県立こども病院 小木曾 嘉文

最初の幹事コラムとしては大変恐縮ですが、今回は9月の研究会総会でのご厚意に甘えて、第21回日本SIDS・乳幼児突然死予防学会の宣伝をさせていただきます。

乳幼児突然死症候群（SIDS）は、その名の通り小児病理の分野に含まれる疾患です。しかし、小児専門病院である長野県立こども病院ですら数年に1例程度と、SIDSに遭遇する機会はそれほど多くありません。多くの症例が都会では監察医務院、その他の地方では司法解剖に回されるためです。こうした実情から学会員の約3割が法医学者（過半数が小児科医）で、病理分野は救急分野とともに少数派を形成しています。会員動向からも私が学術集会を主催するのは相当なストレスですが、小児病理の立場から見たSIDSについて他の分野の方々にも知ってもらえる機会であると考えてるようにしています。

さて、学会長がこんなことを言うのもどうかとは思いますが、個人的にはSIDSという疾患自体に納得できない部分があります。学術集会ホームページ (<http://sids21.umin.jp/>) の会長挨拶に書かせていただいた通り、剖検で異常が見つからないのがSIDSであるとは言っても、何も異常がなければその子は生きています。このような矛盾がありながら研究がなかなか進まないのは、診断された時点で既に全例が死亡しているからであり、発症前の病態解析は事実上不可能です。今回の学会では、東大医科研システムセルバンクの天津真先生に「iPS細胞を使ってin vitroでSIDSの再現は可能か？」という内容を含む教育講演を無茶振りしました。彼もiPS細胞の利用法の一番は疾患モデルであると考えているので、それに沿った話をしてくれるのではないかと今から楽しみです。

話はSIDSからそれますが、iPS細胞は遺伝性疾患の研究だけでなく、例えばiPS細胞を神経細胞に分化させる過程でEWS-Fli1遺伝子を発現させてユーイング肉腫の発生機序を探るとか、幅広い疾患研究に応用できる可能性を秘めています。今後は症例数が少なく発生学的に重要な意味を持つ小児疾患の解明が、iPS細胞を使って劇的に進むのではないかと大いに期待しています。

最後に、3月初旬の松本はまだまだ寒いですが、近くに温泉が沢山あります。是非とも日本SIDS・乳幼児突然死予防学会にご参加いただけるようお願い申し上げます。



4. 地区集会のお知らせ

第72回 関西小児病理研究会
平成26年12月20日（土）午後1時30分から
於；
大阪市立総合医療センター（大会議室）
世話人；
兵庫県立こども病院 吉田牧子先生

第130回 関東東海地区小児病理カンファレンス
平成27年2月21日（土）午前10時30分から
於；
国立成育医療研究センター
世話人；
国立成育医療研究センター病理診断部
中澤温子先生

お知らせ；関東東海地区小児病理カンファレンスはこれまで金曜夜に開催（年3回）していましたが、今回より土曜日午後で開催（年2回）することといたしました。これまでご都合のつかなかった先生方の奮ってのご参加をお待ちしております。

*両研究会とも参加資格は特にありません。小児周産期病理に興味のある方のご参加をお待ちしております。

5. ごあんない

第21回日本SIDS・乳幼児突然死予防学会
テーマ：「正常と異常の境界：あなたはどうか判断
しますか？」
会期：2015年3月6日（金）・7日（土）
会場：松本市中央公民館（Mウィング）6階
〒390-0811 長野県松本市中央1-18-1
TEL：0263-32-1132
JR松本駅から徒歩5分（国宝松本城まで徒歩10分）
会長：
小木曾 嘉文（長野県立こども病院 臨床検査科）

参加費：5,000円（医師以外 2,000円）
懇親会費：3,000円

ホームページ：<http://sids21.umin.jp/>
E-mail: sids21st@gmail.com
事務局 長野県立こども病院 臨床検査科
〒399-8288 長野県安曇野市豊科3100
TEL 0263-73-6700 FAX 0263-73-6710

第1回小児リンパ管疾患シンポジウム
テーマ：「リンパ管腫？リンパ管腫症？ゴーム
病？」
日時；2015年2月15日（日）
会場；国立成育医療研究センター 講堂
時間；
10時-12時 シンポジウム（医療従事者、研究者
向け）

13時-15時 公開シンポジウム（患者さん、ご家族
向け）
参加費：無料
主催；小児リンパ管疾患研究班（代表 国立成育
医療研究センター 野坂俊介）
お問い合わせ；小児リンパ管疾患事務局
E-mail； 2015PLDS@gmail.com

6. 幹事会・総会報告

平成26年9月6日、岡山大学にて日本小児病理研究会幹事会、総会が開催されました。第36回日本小児病理研究会を小田義直先生（九州大学大学院医学研究院形態機能病理学）のお世話で開催することが決定したほか、国際交流の活性化、会報の有効活用を図っていくことなどが話し合われました。平成25年度会計報告および平成26年度予算案が承認されました（別掲）。病理学会期間中に開催されるコンパニオンミーティングへの開催のため、一名の会員（匿名を希望されています）より50万円の寄付があったことが報告されました。この場をお借りして深謝いたします。

事務局より

9月の学術集会がつい先日終わったような気がします。いつの間にか冬の訪れを迎えてしまいました。今号より新企画、『幹事だより』、『ごあんない』を始めました。『幹事だより』には小児病理研究会幹事に小児周産期病理にまつわる話題をコラム形式で執筆していただきます。また、『ごあんない』では、会員にお知らせしたい学会、研究会、勉強会があれば、会報をご利用いただけるように広報いたします。どうぞご利用ください。書式は、会の名称、日時、場所、問い合わせ先等を明記してあれば結構です。

本号も発行が大変遅れ、紙面上、間に合わない内容がでてしまい申し訳ございませんでした。お詫び申し上げます。

訃報

日本小児病理研究会名誉会員の三杉和章先生におかれましては、かねてより病氣療養中でしたが、薬石効なく平成26年11月14日に亡くなりました。三杉先生の本研究会への多大なご貢献に感謝し、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

日本小児病理研究会会報60号
平成26年11月28日発行
編集・発行 松岡健太郎
日本小児病理研究会事務局
<http://jspp.info/>
〒157-8535
東京都世田谷区大蔵2-10-1
国立成育医療研究センター

病理診断部病理診断科
TEL (03)3416-0181
FAX (03)5727-2879
E-mail
matsuoka-k@ncehd.go.jp

平成25年度会計報告

収入の部

会費	260,000 円
前年度繰越金	954,194 円
郵便貯金利息	204 円
寄付（中澤温子先生より）	100,000 円

小計 1,314,398 円

支出の部

第32回学術集会補助	300,000 円
会報発送費(60,61号)	14,080 円
アンケート・選挙用返信用切手	6,960 円

事務費 6,470 円

小計 327,510 円

次年度繰越金 986,888 円

帳簿等を監査したところ、適正に処理されていると認めます。

平成26年9月1日

平成26年度予算案

収入の部

会費	300,000 円
前年度繰越金	986,888 円
郵便貯金利息	200 円

小計 1,287,088 円

支出の部

第33回学術集会補助	300,000 円
会報発送費（3号分）	25,000 円
ホームページ管理費	50,000 円
事務費	5,000 円

小計 380,000 円

次年度繰越金 907,088 円